

第8回緑の基本計画検討部会 摘録

1 開催日時

令和8年2月20日（金）午後2時～午後3時

2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第1会議室

3 出席者（五十音順、敬称略）

委員

7名出席（欠席なし）

委員 天野 晴美

委員 谷 萌子

委員 橋本 佳織

委員 深町 加津枝（部会長）

委員 町田 誠

委員 山口 敬太

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

室長 永田 盛士

事業促進担当部長 藤澤 宏太

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

4 次第

(1) 開会

(2) 審議

答申案の審議

(3) 閉会

5 会議録 <委：委員、事：事務局>

議題：パブリック・コメントに寄せられた市民意見について

委：

パブリック・コメントにおいて非常に多くの意見が寄せられたことは、市民の関心の高さの表れであると感じている。本日は、皆様からお気づきの点や、最終版に向けた修正・追加事項を踏まえた最終確認を行いたい。

委：

156人、416件という意見数は、他計画と比較しても非常に多い印象を受ける。前回の「緑の基本計画」や他計画の意見数と比較して、件数等の多寡を事務局に伺いたい。

事：

他計画との比較では、例えば「京都市はぐくみプラン」が621人、1898件と非常に多かった事例があるが、「京都市公共施設マネジメント基本計画」は58人、116件であった。前回（平成22年）の緑の基本計画改定時は42人、71件であり、今回は大幅に多くの意見をいただいたと言える。

委：

前回の数倍に及ぶ意見が集まったことは、今回の計画案のスタイルが市民に受け入れられやすいものである証左であり、評価したい。

意見の中には数値目標やKPIの設定を求める声もあるが、今回は「共感・共鳴」を通じて政策を推進するアプローチをとっており、その方針に自信を持つべきである。現在は数値、みどりの量が飛躍的に伸びるようなフェーズではない。さらに先の人口減少局面におけるマネジメントのフェーズでは数値目標が持つ意味も含めて取り扱いが重要になるが、現時点では市民の共感を得ることに重点を置いた結果であるという意識を持って、本計画の取組を進めていくべきである。

事：

委員のご指摘の通り、市民を巻き込み、みんなで取り組むという姿勢は本部会での議論のスタート地点であり、市内部でもその意思を確認し取り組んできた。パブリック・コメントへの回答においても、冒頭に「市民とともに理念の実現に向けて取り組む」という思いを記載することで、数値目標に頼らない本計画の主旨を説明したところである。

委：

計画に対する熱い思いが伝わることは重要である。計画本文の中ではどの部分でその思いを記載しているのか。

事：

冒頭の「はじめに」や第4章の「一人ひとりにできること」がそれにあたる。

委：

市民意見への回答にあるような「数値ではなくみんなで協力する」という姿勢を、計画の冒頭「はじめに」でより丁寧に記載することはできないか。

委：

市民意見8を見る限り、計画の意図は伝わっていると感じるが、冒頭で改めてその姿勢をはっきり書くことには賛成である。

委：

継続して議論に参加している我々には思いが伝わっているが、何も知らない市民が読んだ場合、市民意見への回答文に比べると、計画の「はじめに」の文章は少しさらっとしている印象を受ける。

事：

貴重なご意見をいただき感謝する。市長メッセージ欄も含め、計画の冒頭部分で我々の熱い思いがより伝わるよう、表現を工夫したい。

委：

市民意見では写真の美しさを評価する声があったが、視覚障害者の方々にとっては視覚以外の音などの情報も重要である。例えば、哲学の道の花の香りや、鴨川の鳥の声など、嗅覚や聴覚に訴えかけるような「五感で感じるみどり」の情報も、計画に盛り込めないだろうか。

事：

盲点となっていた視点であり、非常に重要なご指摘である。第7章「みどりの取組」に記載の「おすすめ ACTION」の中で季節の植物の香りに触れるなど、工夫したい。

委：

パブリック・コメントの結果から、市民のみどりに対する関心の高さを再認識した。今後は行政による維持管理だけでなく、市民や事業者が官民連携で京都のみどりを守り育てるという意識を、この計画で共有できると思う。

委：

本計画は子どもでも見やすい計画になっていると思うが、意見でも「分かりやすい」という感想が多く、良かったと感じている。

委：

ポジティブな意見が多いことを嬉しく思う。難しいところを飛ばして読んでも主旨が伝わり、「自分も京都のみどりを守っていきたい」と思える計画になっているのではないかと。

紙で読んでも綺麗な誌面になっているので、小学校の図書室などに置けるような工夫も期待したい。

事：

子どもや海外の方への発信についても、今後のアレンジの中で工夫していきたい。発行部数についてはデジタルが基本だが、周知の方法を含めて検討する。

委：

モニタリングやレビューについて懸念する意見もパブコメにあったが、具体的にどのようなスケジュールでレビューを行うのか。

事：

72 ページに記載のとおり、5 年を目途に行う市民アンケートと毎年行う庁内ヒアリングの 2 つの指標でモニタリングを行う。前年度の取組を翌年度にまとめ、審議会等に報告していく流れを考えている。

委：

市民意見に対する回答としては、今の内容で十分だと思う。

分かりやすい計画で色々な人たちと取り組んでいくという姿勢と、みどりの現状把握や課題の分析・対応することは、政策の両輪として不可欠である。課題解決よりも魅力ベースの計画だからこそ、目標設定に関して懸念をされている方々に対しても、モニタリングを通じて現状や課題を共有し、分かりやすく伝えていくことが重要である。

事：

ご指摘のとおり、数値的な根拠の確認は重要である。今後も現状数値の把握を行い、審議会にも報告していく。

議題：修正点の最終確認について

委：

新しく追加された8枚の鳥瞰図は、デジタルブック上でズームアップ・フォーカスして見られる仕様とのことだが、ズームアップした際に、どのようなみどり（畑や小規模公園など）が本計画にカウントされているのかが分かるよう、できる限り精緻な画像データを使用してもらいたい。

事：

現在持ち合わせている中で最も精緻なものを使用しているが、デジタル媒体の利点を活かし、改善点があれば継続的に修正していきたい。

委：

鳥瞰図について、とても分かりやすいものになっていると思う。方位だけでなく「京都駅方面から見た図」といった補足があると、京都に詳しくない方にもより伝わりやすくなると思う。

事：

鳥瞰図に添えるキャプションについて、追加する方向で検討する。

委：

追加された「作品に込めた思い」は、「将来の姿」の作品への理解がさらに深まり、良いと思う。

議題：その他

委：

計画内のリンク先から戻ると1ページ目に戻ってしまう事象があり、操作性にストレスを感じる。改善できないか。

事：

ブラウザやPDF閲覧ソフトの設定に依存する部分もあるが、利便性の向上に向けて技術的な確認を行いたい。

委：

デジタルブックをどう周知するかが課題である。市役所のホームページを見る市民は限られているため、インスタグラムや身近な入り口を増やす工夫が必要ではないか。

委：

せっかくの計画も届かなければ意味がない。イベントや出先機関でのQRコード活用など、周知の幅を広げるべきである。

委：

5分程度の解説動画をYouTube等にアップし、そこからダウンロードリンクへ誘導するような発信ができるといい。

事：

周知については、京都市ホームページ以外にも、職員の名刺やSNSの活用も含め、内部で議論を深める。

総括

委：

非常に前向きな提案を多数いただいた。議論を尽くし、計画はほぼ完成したと考える。

事：

本日いただいた意見を反映させ、3月2日の審議会にて最終的な承認をいただけるよう準備を進めていく。

(以上)